

(1) 英語教育FD/IT活用研究委員会

本委員会(委員長:山本涼一、帝京科学大学)は、20年6月、7月、8月、10月、21年3月の計5回開催した。「英語教育における学士力」の範囲については、まず学部共通の基礎的な知識・技能をとりまとめ、次ぎの段階で専門英語について検討することとした。身につけるべき能力の内容について、当初は対話の聞き取り、専門分野の英語を聞いて理解する「聞く力」、日常生活で意見・考えを伝達し、英語を通じて交渉できる「話す力」、英語の新聞・雑誌の概要を把握、英語の専門書を要約できる「読む力」、英語で伝えるべき内容を整理し、相手と交渉できる「書く力」、4技能を活用して協働で役割分担して新しい価値を生み出す「問題解決する力」、自文化の伝達と異文化の違いを理解し、互いに支え合う「異文化を理解する力」を掲げたが、英語力を超えた範囲にまで拡大しすぎるとして、英語教育で扱うべき固有の能力とし、学習到達度の測定が客観的、標準的に可能な範囲とした。とりまとめに際しては、本協会加盟校の語学系担当教員732名(サイバーFD研究者)にインターネットで意見を求めたところ45名から貴重な意見を伺い、さらに賛助会員の企業や社会の意見も加え、以下の通り中間的に取り纏めた。

<英語(学部共通)教育における学士力>

1. 身近な事柄について簡単な会話ができ、比較的短い文章を読み書きできる。
2. 日常生活の話題や関心事について聞き話し、まとまりのある文章を読み書きできる。
3. 必要な情報や説明を的確に把握し、要点を伝達して理解を得ることができる。